

決算書 (P180～P181)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	五智養護老人ホーム管理運営費		

(2) 指定管理の状況

導入開始年度	平成18年度
指定管理者名	社会福祉法人えちご府中会
現行指定期間	平成28年度～平成30年度 (令和元年度～令和5年度：引き続き、同法人を指定管理者に指定)

(3) 指定管理者制度導入施設における市の収支状況

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
			予 算	実 績
①収入	110,161	112,568	130,588	127,739
②支出	管理運営業務委託料	238,261	241,993	238,733
	修繕料	1,589	2,792	3,208
	その他	6,193	1,716	42,332
	合 計	246,043	240,877	287,533
③公費投入額 (②-①)	135,882	128,309	156,945	154,433
④利用者1人当たりの 公費投入額 (単位：円)	937,117	903,585	1,060,439	1,087,556

※管理運営業務委託料は短期入所（5床分）を含む。

(4) 指定管理者制度の導入効果等（指定管理料の増減額）

前指定期間の指定管理料平均額（決算ベース）	①	243,794
平成30年度の指定管理料（委託料）	②	238,733
指定管理料の増減額	①-②	5,061

(5) 指定管理者制度導入施設における指定管理者の収支状況

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
			計 画	実 績
①収入	介護保険収入	53,936	54,227	55,496
	管理運営業務委託料	238,261	239,981	238,733
	その他	704	284	458
②支出	280,673	287,276	294,432	288,425
差引 (①-②)	12,228	5,471	60	6,262

決算書 (P180～P181)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	五智養護老人ホーム管理運営費		

2 短期入所 5,528

○実施内容、これまでの経過等

養護者の疾病、その他の理由により、一時的に養護する必要がある高齢者を受け入れ、養護者の負担軽減と利用者の生活の安定を図る。

(1) 対象者 おおむね 65 歳以上で、養護者の疾病その他の理由により居宅において養護を受けることが一時的に困難になった人

(2) 入所定員 5人

(3) 自己負担金 1日当たり 1,730 円

(4) 利用実績 (上越市分)

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度 ①	平成 30 年度 ②	比較増減 (②-①)
延べ利用者数 (人)	34	41	45	4
延べ日数 (日)	558	1,075	511	△564
委託料	2,126	4,096	1,947	△2,149

【事業の成果】

- ・上越市老人ホーム入所判定委員会の答申を受け、養護が必要な高齢者等の入所措置を行った。
- ・養護者の疾病等により、居宅において介護を受けることが一時的に困難になった人の短期入所を受け入れた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・地域包括支援センター等の協力を得て入所対象者を把握するとともに、入所定員枠を活用し、速やかに入所措置等を行う必要がある。
- ・指定管理者と連携し、入所者にとって安全で快適な生活環境を確保する必要がある。

【執行残額について】

○入札差金

- ・ナースコール入替工事等 778

○その他

- ・五智養護老人ホームの措置入所者数が当初見込みを下回ったこと等による残 4,584

(単位：千円)

決算書 (P180～P181)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	老人保護措置費等		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
103,966	102,932				1,165 (分担金及び負担金)	101,767
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,034			163	871	

【目的】

養護老人ホーム（春日園、胎内やすらぎの家）への入所措置や軽費老人ホーム（千寿園、ケアハウス上越）への入所により、在宅生活が困難な高齢者の生活の安定を図る。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

1 老人保護措置事業 8,185

○実施内容、これまでの経過等

家庭環境や経済的な理由から、在宅生活が困難な65歳以上の高齢者の安定した生活を確保する。

(1) 施設入所状況及び委託料

区分	運営・委託先	措置人数	措置委託料
養護老人ホーム春日園 (群馬県渋川市)	社会福祉法人春日園	2人 (旧板倉町措置)	5,070
養護盲老人ホーム 胎内やすらぎの家(胎内市)	社会福祉法人愛光会	1人	3,017
合計		3人	8,087

(2) 上越市老人ホーム入所判定委員会 委員報償金、費用弁償(五智養護老人ホーム) 90

(3) 養護盲老人ホーム入所者対応 普通旅費、有料道路使用料(胎内やすらぎの家) 8

決算書 (P180～P181)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	老人保護措置費等		

2 軽費老人ホーム管理運営事業 94,747

○実施内容、これまでの経過等

家庭環境、住宅事情等の理由により、在宅生活が困難な60歳以上の高齢者に対し、低料金で利用できる施設を提供することで、安定した生活を確保する。

(1) 施設の概要と指定管理の状況

施設名	千寿園（寺町3丁目）	ケアハウス上越（新光町3丁目）
導入開始年度	平成18年度	平成18年度
指定管理者名	社会福祉法人上越老人福祉協会	社会福祉法人上越老人福祉協会
現行指定期間	平成28年度～平成30年度	平成28年度～平成30年度
	※令和元年度～令和5年度：両施設ともに、引き続き、同法人を指定管理者に指定	

(2) 入居者数

(単位：人)

区分	定員	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
				計画	実績
千寿園	50	50	50	50	50
ケアハウス上越	30	30	30	30	30

※月の最大入所者数

(3) 指定管理者制度導入施設における市の収支状況

区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度		
				予算	実績	
①収入		-	-	-	-	
②支出	管理運営業務委託料	88,399	88,543	87,517	87,517	
	その他委託料	70	-	405	405	
	千寿園	修繕料	2,824	2,540	2,122	2,121
		備品購入費	301	175	579	418
		土地賃借料	1,550	1,550	890	890
		その他賃借料	-	-	173	173
	ケアハウス上越	修繕料	5,436	4,418	3,224	3,223
		備品購入費	-	789	-	-
合計		98,580	98,015	94,910	94,747	
③入居者1人当たりの公費投入額(円)		1,232,250	1,225,188	1,186,375	1,184,338	

<修繕料の主な内容>

- ・居室給湯暖房システム入替（ケアハウス上越） 864
- ・浴槽循環器系統修繕（千寿園） 605
- ・居室エアコン取替修繕（千寿園） 421

<備品購入費の内容>

- ・冷凍冷蔵庫（千寿園） 345
- ・調理台（千寿園） 73

決算書 (P180～P181)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	老人保護措置費等		

(4) 指定管理者制度の導入効果等（指定管理料の増減額）

区 分		千寿園	ケアハウス上越
前指定期間の指定管理料平均額（決算ベース）	①	57,197	30,567
平成30年度の指定管理料（委託料）	②	56,477	31,040
指定管理料の増減額	①－②	720	△473

(5) 指定管理者制度導入施設における指定管理者の収支状況
＜千寿園＞

区 分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	
				計 画	実 績
①収入	利用料金収入	36,670	36,653	37,227	37,447
	管理運営業務委託料	57,343	57,343	56,476	56,477
	その他	14	15	14	15
②支出		88,902	88,817	93,717	89,747
差引（①－②）		5,125	5,194	0	4,192

＜ケアハウス上越＞

区 分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	
				計 画	実 績
①収入	利用料金収入	21,602	21,180	22,216	20,900
	管理運営業務委託料	31,056	31,200	30,594	31,040
	その他	25	15	0	5
②支出		52,852	53,134	52,810	50,954
差引（①－②）		△169	△739	0	991

【事業の成果】

養護老人ホームや軽費老人ホームへの入所により、在宅生活が困難な高齢者の安定した生活を確保することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

引き続き、指定管理者制度による施設管理運営等を行い、家庭環境等の理由により、在宅生活が困難な高齢者の住まいを確保し、入所者が安定した生活を送れるように努める必要がある。

【執行残額について】

○入札差金

- ・修繕料及び備品購入費（軽費老人ホーム） 163

○その他

- ・養護盲老人ホームの支弁基準額が、当初見込みを下回ったことによる老人保護措置費委託料の残等 871

(単位：千円)

決算書 (P180～P181)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	老人短期入所事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
58	-					
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	58				58	

【目的】

要介護度ごとに定められている介護保険の支給限度額を超えてショートステイを利用する必要がある低所得者に、介護保険と同様の自己負担額で利用できるよう助成する。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

要介護・要支援認定者が、緊急かつやむを得ない事由でショートステイを利用したことにより介護保険法に定められた居宅サービス等区分支給限度基準額を超過した場合に、介護保険と同様に1割の自己負担で利用できるよう、7日分を限度として利用料の9割を助成する。

(1) 対象者

次のいずれにも該当する人

- ・要介護・要支援認定者で介護者の疾病等により支給限度額を超えてショートステイの利用が必要な人
- ・介護保険サービス利用者負担金助成認定証の交付を受けている人又は生活保護受給者

(2) 実施施設

市内ショートステイ事業所

【事業の成果】

助成申請には至らなかったものの、緊急時における利用者や家族等のセーフティネットとして機能している。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

要介護・要支援認定者の緊急時における利用につながるよう、ケアマネジャーなど関係者に対して周知を行う。

【執行残額について】

○その他

- ・利用実績がなかったことによる残 58

(単位：千円)

決算書 (P180～P183)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	日常生活用具助成事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
36,204	34,177			8,700		25,477
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	2,027				2,027	

【目的】

低所得の虚弱なひとり暮らし高齢者世帯等に対し、緊急通報装置を貸与することにより、安心した日常生活を確保する。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成30年度目標

地域包括支援センター等と連携し、特に設置が必要なひとり暮らし高齢者世帯等への積極的な設置勧奨を行い、緊急時における適切な対応を図る。

○実施内容、これまでの経過等

- (1) 対象者
市民税所得割非課税のおおむね65歳以上のひとり暮らし高齢者世帯等
- (2) 貸与品目
緊急通報装置、シルバーホンあんしんS(継続分のみ)
- (3) 貸与状況

区分	平成28年度		平成29年度 ①		平成30年度 ②		比較増減 (②-①)	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
緊急通報装置	1,133	35,776	1,105	35,351	1,069	34,117	△36	△1,234
シルバーホン あんしんS	11	56	10	52	7	42	△3	△10
電話貸与	10	25	9	23	6	18	△3	△5
合計	1,154	35,857	1,124	35,426	1,082	34,177	△42	△1,249

※各年度の件数は、年度末時点の件数

決算書 (P180～P183)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	日常生活用具助成事業		

○目標達成状況

地域包括支援センター等と連携し、ひとり暮らし高齢者世帯等に対して緊急通報装置を貸与することにより、高齢者の不安の解消と緊急時における適切な対応につなげることができた。

【事業の成果】

緊急通報装置の貸与により、ひとり暮らし高齢者世帯等の安心した日常生活を確保することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

ひとり暮らし高齢者世帯や高齢者のみ世帯の増加が見込まれることから、引き続き、地域包括支援センターの訪問活動の際に制度を周知するとともに、緊急通報装置の設置勧奨を図る必要がある。

【執行残額について】

○その他

- ・緊急通報装置等の貸与数が当初見込みを下回ったことによる残 2,027

(単位：千円)

決算書 (P182～P183)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	紙おむつ助成事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
54,110	53,635					53,635
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	475				475	

【目的】

在宅で介護を受けている寝たきりの高齢者等に対して紙おむつを支給することにより、健やかで心地良い生活を支援し、介護者の経済的負担を軽減する。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成30年度目標

地域包括支援センターやケアマネジャーなど関係者と連携を密にし、紙おむつが必要な人に適切に支給を行う。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 対象者

市民税所得割非課税世帯に属し、在宅で介護保険法に規定する要介護1から5の認定を受けており、常時紙おむつを必要としている人

(2) 支給方法

紙おむつと引換できる支給券を交付

(3) 支給内容

支給対象者	支給額
要介護1・2の人	月額3,500円(年額42,000円)
要介護3の人	月額4,000円(年額48,000円)
要介護4・5の人	月額5,000円(年額60,000円)

(4) 支給実績

区分	平成28年度	平成29年度①	平成30年度②	比較増減 (②-①)
登録者数(人)	1,418	1,375	1,328	△47
支給者数(人)	1,231	1,205	1,172	△33
支給額	56,349	54,880	53,099	△1,781

※登録者数、支給者数は年平均

決算書 (P182～P183)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	紙おむつ助成事業		

○目標達成状況

地域包括支援センターやケアマネジャーなど関係者と連携を密にし、紙おむつを必要とする人に適切に支給することができた。

【事業の成果】

紙おむつを必要とする人に対し、心地良い生活を支援するとともに、介護者の経済的負担の軽減を図った。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

引き続き、地域包括支援センターやケアマネジャーなど関係者と連携し、紙おむつが必要な人に適切に支給できるようにする。

【執行残額について】

○その他

- ・延べ支給回数が当初見込みを下回ったことによる給付費等の残 475

(単位：千円)

決算書 (P182～P183)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	在宅福祉支援事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
17,820	16,674					16,674
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,146				1,146	

【目的】

高齢者が安心して在宅で生活を営めるよう、高齢者と高齢者を支える介護者の負担軽減や地域の見守り支援等を通じて、福祉の増進を図る。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

1 寝具丸洗い乾燥サービス事業 9,158

○平成30年度目標

地域包括支援センターやケアマネジャーなど関係者と連携を密にし、寝具の丸洗い、乾燥サービスが必要な人に適切なサービスを提供する。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 実施内容

<要支援以上の認定を受けた人>

区分	回数と負担額
丸洗い	年2回(5月・11月)
乾燥	月1回(5月・11月を除く)
市民税所得割課税 世帯の自己負担額	介護保険負担割合が1割：丸洗い400円、乾燥250円 (費用のおおむね1割)
	介護保険負担割合が2割・3割：丸洗い800円、乾燥500円 (費用のおおむね2割)

<ひとり暮らし高齢者世帯又は高齢者のみ世帯で寝具の衛生管理が困難な人>

区分	回数と負担額
丸洗い	年1回(11月)
乾燥	月1回(11月を除く)
市民税所得割課税 世帯の自己負担額	介護保険負担割合が1割(相当)：丸洗い400円、乾燥250円 (費用のおおむね1割)
	介護保険負担割合が2割・3割(相当)：丸洗い800円、乾燥500円 (費用のおおむね2割)

※市民税所得割非課税世帯は、自己負担なし

決算書 (P182～P183)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	在宅福祉支援事業		

(2) 利用件数等

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度 ①	平成 30 年度 ②	比較増減 (②-①)
利用助成費	9,539	9,043	9,090	47
登録者数 (人)	582	571	535	△36
利用件数 (件)	丸洗い	700	687	4
	乾 燥	2,653	2,197	0
	合 計	3,353	2,880	4

○目標達成状況

寝具の丸洗い・乾燥サービスの提供により、利用者が衛生的な生活環境を保つとともに、介護者の負担軽減につなげることができた。

2 訪問理・美容サービス事業 1,976

○平成 30 年度目標

ケアマネジャー及び理・美容店への周知を図り、訪問理・美容サービスを必要な人が本制度を利用し、快適に生活を営めるようにする。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 対象者

要介護 1 から 5 の認定を受けており、理・美容店へ行くことができない人

(2) 限度回数

年間 6 回

(3) 助成額

出張費 1 件 1,500 円 (理・美容料金は本人の負担)

(4) 利用件数等

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度 ①	平成 30 年度 ②	比較増減 (②-①)
報償費	2,120	2,046	1,908	△138
登録者数 (人)	648	637	599	△38
利用件数 (件)	1,881	1,778	1,643	△135

※施設への出張については、午前・午後を単位として、複数人を整髪した場合であっても 1 回の出張として扱う。

○目標達成状況

訪問理・美容サービスが必要な人に、快適に生活を送ることができるようサービスを提供した。

決算書 (P182～P183)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	在宅福祉支援事業		

3 高齢者福祉相談事業 4,150

○平成30年度目標

ワンストップサービスでの確に対応する。

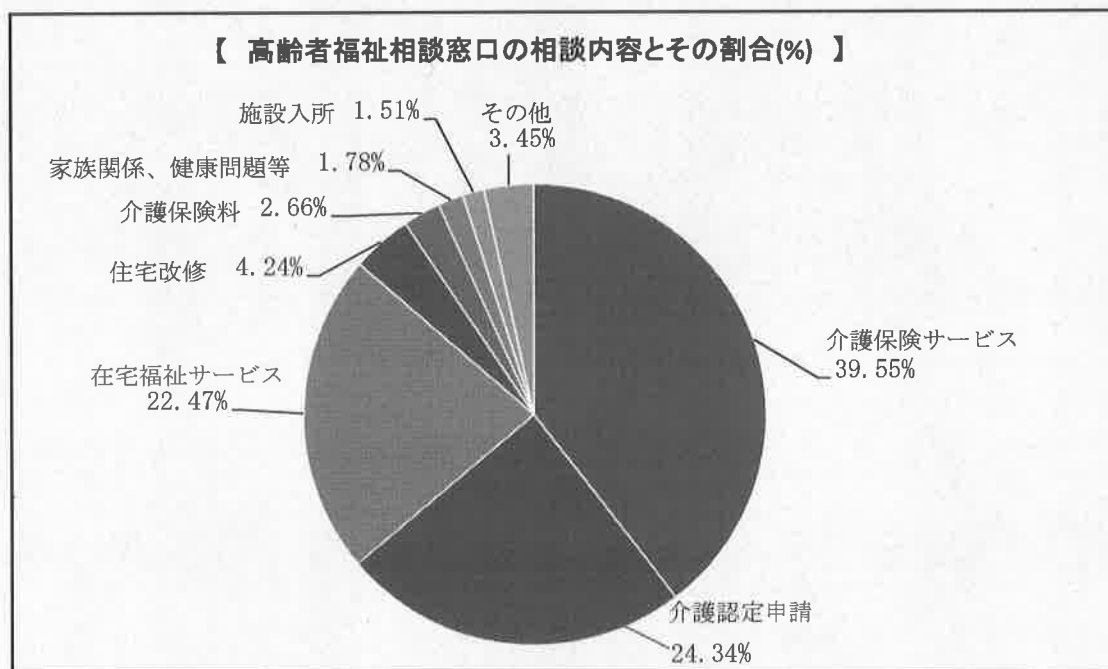
○実施内容、これまでの経過等

相談員による窓口での介護保険サービス等の申請受付及び高齢者福祉相談業務を実施した。

区分	平成28年度	平成29年度 ①	平成30年度 ②	比較増減 (②-①)
相談件数(件)	13,212	13,075	13,516	441

<相談内容>

- ・介護保険サービスに関する相談 5,345件
- ・介護認定申請に関する相談 3,290件
- ・在宅福祉サービスに関する相談 3,037件
- ・その他の相談等 1,844件



○目標達成状況

福祉総合窓口センター（木田庁舎1階）において、高齢者や家族からの多様な相談等に対応できた。

決算書 (P182～P183)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	在宅福祉支援事業		

4 救急医療・災害時支援情報キット配付事業 1,279

○平成30年度目標

65歳となったひとり暮らし高齢者や指定避難所の福祉避難スペース対象者となった人等を的確に把握し、キットを配付する。

○実施内容、これまでの経過等

- ・65歳以上のひとり暮らし高齢者等を対象に、救急医療・災害時支援情報キット（かかりつけ医療機関、緊急連絡先、災害時の避難先等を記入した救急医療・災害時支援情報シートを入れた筒状の容器で、冷蔵庫や非常用持出袋に保管）を配付し、急病時等における迅速な救命救急活動や災害時の避難支援につなげた。
- ・急病時等に的確な救命救急活動ができるよう、救急医療・災害時支援情報シートの更新期間を3年から2年に短縮した。

○目標達成状況

65歳となったひとり暮らし高齢者や、福祉避難所避難対象者及び指定避難所の福祉避難スペースの対象者となった人を的確に把握し、救急医療・災害時支援情報キットを1,909人に配付した。

5 高齢者見守り支援ネットワーク事業 111

○平成30年度目標

地域で行われている見守り活動の実例を広く町内会等に紹介し、新たに見守り活動が行われる地域を増やす。

○実施内容、これまでの経過等

- ・高齢者見守り支援ネットワーク会議を2回開催し、高齢者等見守り協力事業所との意見交換会の開催や、地域による見守り活動の検討会への参加など、高齢者の見守り支援の強化に向けた具体的な取組内容を決定した。
- ・高齢者等見守り協力事業所（11事業所）との意見交換では、見守り活動や異変発見時の対応事例などの情報共有を図った。
- ・新たに、上越市シルバー人材センターが高齢者等見守り協力事業所に登録したほか、新潟県柔道整復師会上越ブロックと高齢者等見守り支援ネットワークに関する協定を締結し、事業所の協力による見守り活動を強化した。

○目標達成状況

各地域の実情にあわせた見守り活動が行われるよう、地域に出向いて働きかけを行ったことで、一部地域において地域全体で高齢者を見守る意識を醸成するための学習会が開かれるなど、新たな見守り活動の実施に向けた動きにつなげることができた。

【事業の成果】

各サービスの周知と提供により、高齢者及びその介護者の安心で快適な在宅生活につなげた。

決算書 (P182～P183)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	在宅福祉支援事業		

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

高齢者が安全・安心に暮らすことができるよう、引き続き見守り支援を含め在宅生活の不安解消に向けた取組を進めるとともに、介護者の負担軽減につながるよう必要な支援を行っていく必要がある。

【執行残額について】

○その他

- ・各事業の実績が当初見込みを下回ったことによる残 1,146

(単位：千円)

決算書 (P182～P183)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	老人福祉対策事務費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
10,313	9,275				59 (諸収入)	9,216
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,038				1,038	

【目的】

高齢者福祉業務に係るシステムの運用管理及び事務に必要な経費を計上し、高齢者福祉業務を円滑に遂行する。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

- 1 老人福祉対策事務費 8,164
 - 実施内容、これまでの経過等
 - (1) 高齢者福祉支援システム改修委託料 259
 - (2) その他事務費 7,905
 - ・非常勤一般職報酬及び共済費 (5,730)
 - ・複写機借上料 (1,190)
 - ・庁用自動車管理経費 (358)
 - ・職員旅費、消耗品費 ほか (627)
- 2 避難行動要支援者支援事業 1,111
 - 平成30年度目標

町内会(自主防災組織)における個別避難計画の作成率を95%以上とする。
 - 実施内容、これまでの経過等
 - (1) 災害時要援護者台帳システム改修業務委託料 845

地域包括支援センターの再編に伴う担当地区の修正、個別避難計画の帳票修正、地図検索等を行うためのシステム改修を行った。
 - (2) 避難行動要支援者名簿の更新 266

災害時における避難行動要支援者の支援体制を整えるため、民生委員・児童委員の協力を得て避難行動要支援者名簿を整理し、町内会(自主防災組織)や関係機関(警察署、消防署、地域包括支援センターなど)に必要な情報を提供した。
 - 目標達成状況

町内会(自主防災組織)における個別避難計画の作成率の目標を達成することはできなかったが、平成29年度の87.8%より3.6ポイント上昇し91.4%となった。

決算書 (P182～P183)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	老人福祉対策事務費		

3 福祉避難所

○実施内容、これまでの経過等

災害時に福祉避難所避難対象者が、直接、福祉避難所へ避難できるよう、対象者名簿の更新を3か月に1回行い、町内会、民生委員・児童委員等に情報提供を行うとともに、町内会の協力を得て、福祉避難所避難対象者の避難支援者の選定を行った。

＜福祉避難所避難対象者＞

(平成31年3月末現在)

区 分	人数
身体障害者手帳1・2級、療育手帳A、精神障害者保健福祉手帳1級のいずれかを所持する人のうち、障害支援区分5・6に該当する人	131人
障害特性により指定避難所で生活を送ることが困難な人（多動や自閉症等の障害のある人など）	63人
要介護4・5の人のうち、特別な医療が必要な人及びひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯の人	288人
合 計	482人

【事業の成果】

- ・災害時要援護者台帳システムの運用、保守管理及び改修を確実にを行い、関係団体への情報提供を含め、避難支援を始めとした災害時対応に備えることができた。
- ・福祉避難所避難対象者名簿の更新を定期的に行ったことにより、平成30年8月の大雨に伴う対応において、福祉避難所におけるスムーズな受入れにつなげることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

引き続き、個別避難計画を作成できていない町内会へ出向き助言を行うなど、個別避難計画の作成に向けた支援を行う必要がある。

【執行残額について】

○その他

- ・郵送料等の事務経費が当初見込みを下回ったことによる残 1,038

(単位：千円)

決算書 (P182～P183)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	住宅環境整備事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
12,299	12,074		6,017			6,057
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	225				225	

【目的】

高齢者の身体状況に適した住宅の改造等に必要な経費を補助することにより、高齢者が住み慣れた家で安心して自立した生活を送ることができるようにするとともに、介護者の負担軽減を図る。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成30年度目標

高齢者の身体状況に応じた自立支援、転倒予防及び家族の介護負担の軽減等につながる改造となるよう、住宅改修等適正化推進員が確認し、必要に応じて助言を行う。

○実施内容、これまでの経過等

- (1) 対象者 前年の世帯合計収入が600万円未満で、65歳以上の要介護・要支援認定を受けた高齢者
- (2) 補助限度額 30万円(県の補助基準と同額)
- (3) 補助率 生活保護世帯 10/10(限度額30万円)
所得税非課税世帯 3/4(限度額22.5万円)
所得税課税世帯 1/2(限度額15万円)
- (4) 対象経費 玄関・浴室・トイレ・居室・廊下の改造費用
段差解消機・階段昇降機・ホームエレベーターの設置費用
- (5) 補助額及び補助件数

区分	平成29年度		平成30年度		比較増減	
	件数(件)	補助額	件数(件)	補助額	件数(件)	補助額
高齢者向け住宅リフォーム助成	59	9,624	67	12,074	8	2,450
生活保護世帯	-	-	-	-	-	-
所得税非課税世帯	39	7,168	45	9,131	6	1,963
所得税課税世帯	20	2,456	22	2,943	2	487

決算書 (P182～P183)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	住宅環境整備事業		

○目標達成状況

高齢者の身体状況に応じた自立支援、転倒予防及び家族の介護負担軽減等につながる改造等となるよう、住宅改修等適正化推進員が書類審査や現地確認を行い、施工業者やケアマネジャーに必要な助言を行った。

【事業の成果】

高齢者の身体状況に適したトイレ、玄関などのリフォームに対し助成したことで、高齢者が住み慣れた家で安心して自立した生活を送ること及び介護者の負担軽減につなげることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

ケアマネジャーや建築住宅課等の関連部署と連携して制度の周知を図るとともに、住宅改修等適正化推進員の必要な助言により、高齢者の身体状況に応じた改造につながるよう取組を進めていく必要がある。

【執行残額について】

○その他

- ・補助件数が当初見込みを下回ったことによる残 225

(単位：千円)

決算書 (P182～P183)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	シルバー人材センター費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
19,378	19,316					19,316
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	62			4	58	

【目的】

高齢者に対し、就業を通じて生きがいの場を提供するシルバー人材センターを支援することにより、高齢者の就業機会の創出と地域社会の活性化を推進する。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

1 シルバー人材センター補助金等 17,971

○実施内容、これまでの経過等

上越市シルバー人材センターの運営費を補助

<上越市シルバー人材センターの実績(派遣事業を含む)>

区分	平成28年度	平成29年度 ①	平成30年度 ②	比較増減 (②-①)
会員数(人)	1,053	1,039	1,054	15
受注件数(件)	11,311	11,388	11,072	△316
事業収入額	473,085	485,693	490,277	4,584

2 シルバープラザ上越維持管理 1,345

○実施内容、これまでの経過等

(1) 施設の概要

シルバープラザ上越：平成14年3月供用開始(旧中央病院看護専門学校学生寮を改修)

- ・位置：西城町1丁目12番17号
- ・建物：鉄筋コンクリート造4階建て 1,442.78㎡

(2) 施設の管理

施設管理に係る修繕費、各種業務委託等

- ・トイレロータンク修繕、1階天井化粧板張替え及び点検口取付修繕等
- ・機械警備業務、日常清掃業務、消防用設備点検業務等

【事業の成果】

シルバー人材センターが行う高齢者への就業機会の提供を通じて、活力ある地域づくりの推進の一翼を担う高齢者の活動と活躍の場づくりにつながるよう支援した。

決算書 (P182～P183)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	シルバー人材センター費		

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

会員の高齢化や就業機会の確保が課題となっていることから、引き続き、シルバー人材センターと連携して新規会員の獲得や就業機会の創出に向けた取組を実施していく必要がある。

【執行残額について】

- 入札差金
 - ・施設管理委託料 4
- その他
 - ・電信電話料等が当初見込みを下回ったことによる残 58

(単位：千円)

決算書 (P184～P185)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	敬老祝賀事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
39,897	39,784					39,784
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	113				113	

【目的】

家族や地域住民が、長年にわたり社会の発展に貢献した高齢者を敬愛するとともに、心豊かな地域社会づくりを目指す。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

1 敬老会 39,032

○平成30年度目標

合併前15区における敬老会等の実施率(町内会ベース) 75.9%

○実施内容、これまでの経過等

(1) 対象者

75歳以上の高齢者

(2) 内容

<合併前15区>

- ・町内会等地域団体に敬老会等(地区敬老会の開催又は祝品のみ贈呈)を委託した。
- ・上記の委託ができなかった地区については、町内会や高齢者等入居施設を通じて、市が用意した祝菓子等を配付した。
- ・より多くの町内会が地区敬老会を開催できるよう、地区敬老会の好事例集や準備マニュアルのほか、アトラクションの事例集を配付した。

<13区>

- ・まちづくり振興会等に地区敬老会の開催を委託した。

決算書 (P184～P185)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	敬老祝賀事業		

(3) 敬老会等実施(委託)状況

区分	敬老会等実施町内会数			対象者数及び出席状況			
	町内会 総数	実施 町内 会数	実施率 (%)	対象者数(人) (①+②)	地区敬老会 開催町内①	うち 出席者	祝品のみ 贈呈町内②
高田	57	57	100.0	5,397	4,847	1,558	550
新道	22	13	59.1	961	961	335	0
金谷	27	19	70.4	1,843	1,843	724	0
諏訪	11	11	100.0	158	158	73	0
和田	21	14	66.7	655	544	212	111
津有北部	17	17	100.0	431	431	128	0
津有南部	15	11	73.3	224	224	116	0
春日	19	13	68.4	1,842	1,842	493	0
三郷	11	3	27.3	51	16	10	35
高士	14	14	100.0	293	293	119	0
直江津	22	21	95.5	1,790	1,738	601	52
五智	15	12	80.0	1,159	1,159	383	0
有田	25	8	32.0	772	636	237	136
八千浦	10	5	50.0	496	496	205	0
保倉	17	16	94.1	433	370	149	63
北諏訪	8	4	50.0	142	142	72	0
谷浜	13	10	76.9	257	176	67	81
桑取	9	9	100.0	92	92	28	0
小計	333	257	77.2	16,996	15,968	5,510 (出席率34.5%)	1,028
安塚	17	17	100.0	770	770	169	0
浦川原	35	35	100.0	730	730	149	0
大島	24	24	100.0	514	514	165	0
牧	39	39	100.0	591	591	153	0
柿崎	57	57	100.0	2,021	2,021	373	0
大潟	22	22	100.0	1,641	1,641	442	0
頸城	55	55	100.0	1,354	1,354	367	0
吉川	52	52	100.0	1,005	1,005	203	0
中郷	24	24	100.0	806	806	175	0
板倉	50	50	100.0	1,402	1,402	232	0
清里	25	25	100.0	552	552	188	0
三和	46	46	100.0	1,072	1,072	182	0
名立	38	38	100.0	645	645	105	0
小計	484	484	100.0	13,103	13,103	2,903 (出席率22.2%)	0
合計	817	741	90.7	30,099	29,071	8,413 (出席率28.9%)	1,028

※対象者(75歳以上の高齢者)がない町内会は含まない。

※上記①の地区敬老会の欠席者には、町内会等地域団体が別途祝品を贈呈した。

※敬老会等を実施しない町内会等では、市が用意した祝菓子等を配付した。対象者:3,503人

決算書 (P184～P185)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	敬老祝賀事業		

○目標達成状況

合併前 15 区における敬老会等（地区敬老会開催・祝品贈呈）の実施率は 77.2%となり、目標を達成することができた。

2 100 歳祝賀事業 752

○実施内容、これまでの経過等

(1) 対象者

平成 30 年度中に 100 歳を迎えた 85 人

（大正 7 年 4 月 1 日から大正 8 年 3 月 31 日の間に出生した人）

(2) 内容

対象者の自宅等を訪問し、祝状と記念品（色絵椿紋 面取湯呑）を贈呈した。

【事業の成果】

- ・敬老会等は、好事例集や準備マニュアルの配付の効果もあり、目標を上回る実施率となった。市と地域が長年にわたり地域に貢献してきた高齢者に感謝の意を表し、長寿を祝福することができ、あわせて、地域や参加者同士の交流等が図られた。また、敬老会等を実施しない町内会等についても、市が用意した祝菓子等を配付してもらうことにより、高齢者に敬老の意を表すことができた。
- ・100 歳祝賀事業は、新潟県と連携を図り、祝賀対象者に国・県とあわせて祝状と記念品を贈呈し、100 歳となる節目の年に敬老の意を表すことができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

合併前 15 区においては、引き続き、敬老会等を実施していない町内会に対し、好事例集や準備マニュアルを活用して働きかけを行うなど、敬老会等の実施率の更なる向上に取り組む必要がある。

【執行残額について】

○その他

- ・対象者数が当初見込みを下回ったことによる残 113

(単位：千円)

決算書 (P184～P185)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	老人趣味の家等管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
21,368	20,920				3,346 (寄附金、譜収入)	17,574
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	448					448

【目的】

趣味の家で各種講座を開催するほか、老人憩の家の管理運営を通して高齢者同士の交流や居場所づくりを促進し、生きがいつくりと活動の場の創出を図る。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

1 老人趣味の家趣味講座運営費 4,444

○平成30年度目標

高田西趣味の家趣味講座延べ受講者数 12,200人

○実施内容、これまでの経過等

<高田西趣味の家趣味講座開催状況>

区分	平成28年度	平成29年度 ①	平成30年度 ②	比較増減 (②-①)
講座数	18	18	19	1
延べ講座回数	652	658	696	38
延べ受講者数(人)	12,240	11,912	12,372	460

※健康の維持・増進につながる講座のニーズが高いことから、気軽に軽運動を楽しめるカントリーラインダンス講座を新たに開講した。

○目標達成状況

趣味講座延べ受講者数は12,372人となり、目標を達成できた。

2 老人趣味の家維持費 2,752

○実施内容、これまでの経過等

(1) 施設の概要

高田西趣味の家(大貫2丁目3番23号)平成4年12月開設 木造平屋建て 360.22㎡

(2) 実施内容

趣味の家の維持管理(光熱水費、施設管理業務、機械警備ほか)

決算書 (P184～P185)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	老人趣味の家等管理運営費		

3 老人憩の家管理運営費 423

○実施内容、これまでの経過等

(1) 施設の概要

磯野園（西城町3丁目7番28号）昭和53年10月開設 木造2階建て 253.97㎡

(2) 実施内容

磯野園の維持管理（鍵管理謝礼、光熱水費、施設管理業務）

<磯野園利用状況>

区分	平成28年度	平成29年度 ①	平成30年度 ②	比較増減 (②-①)
延べ利用者数(人)	4,613	4,543	4,262	△281

4 老人福祉センター春日山荘補助金 13,301

○実施内容、これまでの経過等

<春日山荘趣味教室の開催状況>

区分	平成28年度	平成29年度 ①	平成30年度 ②	比較増減 (②-①)
講座数	34	34	35	1
延べ講座回数	1,102	1,102	1,102	0
延べ受講者数(人)	24,815	23,619	22,065	△1,554

【事業の成果】

趣味講座の開催や高齢者が集える場の提供により、高齢者同士の交流を深めるとともに居場所づくりを促進し、生きがいがづくりと活動の場の創出につなげることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

引き続き、高齢者同士の交流や居場所づくりを促進するとともに、趣味やスポーツを通して生きがいがづくりと活動の場を創出できるよう支援する必要がある。

【執行残額について】

○その他

- ・施設管理委託料が当初見込みを下回ったことによる残 194
- ・光熱水費等が当初見込みを下回ったことによる残 254

(単位：千円)

決算書 (P184～P185)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	ゲートボールハウス等管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
16,207	15,207				3,066 (使用料、財源収入等)	12,141
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,000		635	113	252	

【目的】

ゲートボールハウス等の施設設備を適切に維持管理し、高齢者の健康保持と交流の場を提供するとともに、高齢者の生きがいをづくりにつなげる。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成30年度目標

延べ利用者数 63,800人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 施設の概要

区分	施設名	所在地	コート数	使用料
屋内	直江津ゲートボールハウス	有田区(佐内町)	2	・コート1面 1時間400円 ・暖房1面 1時間200円
	中部ゲートボールハウス	新道区(富岡)	2	
	高田西ゲートボールハウス	金谷区(大貫)	2	
	高田東ゲートボールハウス	津有区(本新保)	2	
	安塚多目的交流施設	安塚区(安塚)	1	
	浦川原谷ゲートボールハウス	浦川原区(谷)	1	
	大瀧コミュニティスポーツハウス	大瀧区(雁子浜)	2	
	三和ふれあいホール	三和区(島倉)	2	
屋外	春日山ゲートボール場	春日区(大豆)	8	無料
	牧ゲートボール場	牧区(田島)	2	
合計	10施設		24	-

決算書 (P184～P185)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	ゲートボールハウス等管理運営費		

(2) 利用者数

(単位：人)

区分	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
				計画	実績
屋内	直江津ゲートボールハウス	9,794	7,440	9,100	6,658
	中部ゲートボールハウス	15,637	14,595	15,100	12,958
	高田西ゲートボールハウス	12,019	10,857	11,900	11,070
	高田東ゲートボールハウス	11,379	9,840	11,200	9,731
	安塚多目的交流施設	1,368	1,283	1,300	1,607
	浦川原谷ゲートボールハウス	160	90	90	21
	大潟コミュニティスポーツハウス	1,012	1,455	1,250	1,389
	三和ふれあいホール	4,006	4,064	4,060	3,675
屋外	春日山ゲートボール場	7,917	9,601	9,250	8,941
	牧ゲートボール場	503	573	550	449
合計	10施設	63,795	59,798	63,800	56,499

(3) 施設管理における市の収支状況

区分	ゲートボールハウス (4施設) ※	安塚多目的 交流施設	浦川原谷 ゲートボールハウス	大潟コミュニティ スポーツハウス	
①収入	使用料収入	2,273	90	0	155
	その他	145	-	-	-
	合計	2,418	90	0	155
②支出	施設維持管理費	9,437	274	593	998
	うち委託料	5,275	84	346	687
	その他	-	-	-	-
	合計	9,437	274	593	998
③公費投入額 (②-①)	7,019	184	593	843	
④利用者1人当たりの 公費投入額 (単位：円)	174	114	28,238	608	

区分	三和ふれあい ホール	春日山 ゲートボール場	牧 ゲートボール場	
①収入	使用料収入	404	-	-
	その他	-	-	-
	合計	404	-	-
②支出	施設維持管理費	1,349	649	7
	うち委託料	497	243	-
	その他	-	1,900	-
	合計	1,349	2,549	7
③公費投入額 (②-①)	945	2,549	7	
④利用者1人当たりの 公費投入額 (単位：円)	257	285	16	

※ゲートボールハウス (4施設)：直江津、中部、高田西、高田東ゲートボールハウス

決算書 (P184～P185)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	ゲートボールハウス等管理運営費		

○目標達成状況

延べ利用者数は56,499人となり、目標を達成することができなかった。

【事業の成果】

- ・ゲートボールハウス等を適正に管理・運営することで、高齢者同士の交流の促進や高齢者の生きがいと健康づくりにつなげた。
- ・高田東ゲートボールハウス駐車場の舗装部分修繕を行い、適切な維持管理を行った。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・ゲートボール愛好者の高齢化や、輪投げやグラウンド・ゴルフなど新たなスポーツ活動の普及により、ゲートボール人口は今後も減少傾向が続くと予想されることから、上越市老人クラブ連合会等に意見を聴きながら、新たなスポーツ活動を含め、高齢者の交流や健康づくりの促進に向けた取組を進めていく必要がある。
- ・ゲートボールハウスの利用者数減に伴い、使用料収入が減少していることから、施設の維持管理経費の適正化を図る必要がある。

【執行残額について】

○事業未実施

- ・屋根雪除雪業務委託料 635

○入札差金

- ・高田東ゲートボールハウス駐車場舗装部分修繕等 87
- ・施設管理委託料等 26

○その他

- ・光熱水費等が当初見込みを下回ったことによる残 252

(単位：千円)

決算書 (P184～P187)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	老人クラブ助成事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
24,965	24,954		12,792			12,162
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	11				11	

【目的】

会員同士の交流を深め、高齢者の生きがいと健康づくりの増進を図るため、老人クラブ及び老人クラブ連合会の活動を支援する。また、各連合会を統括する上越市老連連絡協議会の活動を支援し、連合会同士の連携を推進する。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成30年度目標

老人クラブの事業費の一部を助成するとともに、老人クラブの活性化に向けた意見交換を行い、老人クラブ活動の促進と高齢者の生きがいと健康づくりの増進を図る。

○実施内容、これまでの経過等

- ・老人クラブ連合会及び上越市老連連絡協議会の事務費を補助し活動を支援した。
- ・老人クラブ連合会及び上越市老連連絡協議会と花植え活動やグラウンド・ゴルフの推進など、老人クラブの活性化に向けた意見交換を4回実施した。

(1) 単位老人クラブへの補助 18,019

① 老人クラブ連合会に加入している単位老人クラブへの補助 (17,250)

- ・活動月割額 3,500円×活動月数
- ・会員数割額 450円×会員数

② 老人クラブ連合会に加入していない団体への補助 (769)

- ・活動月割額 1,500円×活動月数
- ・会員数割額 150円×会員数

(2) 老人クラブ連合会(13連合会)への補助 6,735

- ・基準割額 194,400円
- ・構成団体割額 1,050円×構成団体数×活動月数
- ・会員数割額 70円×会員数

(3) 上越市老連連絡協議会への補助 200

決算書 (P184～P187)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	老人クラブ助成事業		

<老人クラブ数、会員数、補助金額の状況>

区 分		平成 28 年度	平成 29 年度 ①	平成 30 年度 ②	比較増減 (②-①)
老人クラブ連合会 に加入している単 位老人クラブ	クラブ数	272	266	254	△12
	会員数(人)	16,334	15,708	14,635	△1,073
	補助金額	16,312	18,234	17,250	△984
老人クラブ連合会 に加入していない 団体	団体数	-	35	33	△2
	会員数(人)	-	1,486	1,415	△71
	補助金額	-	802	769	△33
合 計	クラブ・団体数	272	301	287	△14
	会員数(人)	16,334	17,194	16,050	△1,144
	補助金額	16,312	19,036	18,019	△1,017

<老人クラブ連合会補助金の状況>

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度 ①	平成 30 年度 ②	比較増減 (②-①)
老人クラブ連合会補助金	7,098	6,978	6,735	△243

○目標達成状況

老人クラブ連合会に加入している 254 クラブ、老人クラブ連合会に加入していない 33 団体等の事業費等の一部を助成し、高齢者の健康保持増進活動、交流・友愛活動及び地域福祉活動を活性化するとともに、高齢者の生きがいと健康づくりにつなげることができた。

【事業の成果】

老人クラブの活性化に向け、老人クラブ連合会等と意見交換を行った結果、新たにグラウンド・ゴルフ体験会を開催することができ、参加した会員同士の交流を深めることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

引き続き、老人クラブ連合会等と会員確保に向けた取組を検討し、高齢者の生きがいと健康づくりの増進につなげていく必要がある。

【執行残額について】

○その他

- ・単位老人クラブ数及び会員数等の減少に伴う補助金の残 11

(単位：千円)

決算書 (P186～P187)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	生きがいと健康づくり推進事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
5,641	5,625					5,625
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	16				16	

【目的】

スポーツや趣味活動などを通し、高齢者同士の交流や市民との交流を深め、高齢者の健康増進と生きがいづくりに寄与する。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

1 シニアスポーツ大会 2,974

○平成30年度目標

シニアスポーツ大会参加者数 4,200人

○実施内容、これまでの経過等

<シニアスポーツ大会開催状況>

(単位：クラブ、人)

区分	平成28年度		平成29年度 ①		平成30年度 ②		比較増減 (②-①)	
	クラブ数	人数	クラブ数	人数	クラブ数	人数	クラブ数	人数
合併前15区	81	1,099	78	1,035	71	908	△7	△127
安塚区	8	178	8	173	8	175	0	2
浦川原区	8	187	8	185	6	159	△2	△26
大島区	8	152	7	161	7	137	0	△24
牧区	13	180	13	160	12	149	△1	△11
柿崎区	22	331	21	315	21	298	0	△17
大潟区	10	250	10	250	8	192	△2	△58
頸城区	20	450	19	450	18	430	△1	△20
吉川区	11	250	9	254	8	230	△1	△24
中郷区	14	180	14	183	13	176	△1	△7
清里区	10	342	10	342	10	311	0	△31
三和区	15	480	15	450	13	410	△2	△40
名立区	4	66	4	65	4	64	0	△1
合計	224	4,145	216	4,023	199	3,639	△17	△384

決算書 (P186～P187)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	生きがいと健康づくり推進事業		

○目標達成状況

シニアスポーツ大会参加者数は3,639人となり、目標を達成することができなかった。

2 シニア作品展 348

○平成30年度目標

シニア作品展来場者数 1,700人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 期間：平成30年10月25日(木)～28日(日)

(2) 会場：上越市市民プラザ

(3) 主な出品の種類：書道、水彩画、陶芸、編物、パッチワーク、切り絵、墨画、盆栽など
<出品総数及び来場者数>

区分	平成28年度	平成29年度 ①	平成30年度 ②	比較増減 (②-①)
出品総数(点)	452	445	439	△6
来場者数(人)	1,689	1,473	1,793	320

○目標達成状況

シニア作品展来場者数は1,793人となり、目標を達成することができた。

3 シニアゲートボール大会等 452

○平成30年度目標

シニアゲートボール大会等参加者数 630人

○実施内容、これまでの経過等

<シニアゲートボール大会等開催状況>

(単位：クラブ、人)

区分	平成28年度		平成29年度 ①		平成30年度 ②		比較増減 (②-①)	
	クラブ数	人数	クラブ数	人数	クラブ数	人数	クラブ数	人数
合併前15区	35	228	35	220	30	197	△5	△23
浦川原区	5	23	4	19	4	21	0	2
大島区	8	51	10	49	6	31	△4	△18
牧区	8	60	8	56	8	49	0	△7
頸城区	10	59	8	48	8	42	0	△6
清里区	10	85	10	88	10	80	0	△8
小計	76	506	75	480	66	420	△9	△60
三和区※	10	130	9	100	17	370	8	270
合計	86	636	84	580	83	790	△1	210

※三和区では、シニアゲートボール大会を、平成30年度から輪投げ大会に変更して開催

○目標達成状況

シニアゲートボール大会等参加者数は790人となり、目標を達成することができた。

決算書 (P186～P187)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	生きがいと健康づくり推進事業		

4 花き生産作業委託 1,851

○平成30年度目標

春苗配付老人クラブ数 250クラブ

○実施内容、これまでの経過等

委託により栽培した花苗を老人クラブの地域福祉活動に活用した。

区分	配付先 団体	平成28年度		平成29年度 ①		平成30年度 ②		比較増減 (②-①)	
		配付 団体数	配付数	配付 団体数	配付数	配付 団体数	配付数	配付 団体数	配付数
春苗	単位老人 クラブ	247	9,880	246	9,840	233	9,320	△13	△520
秋苗	老人福祉 施設	32	580	34	578	35	595	1	△17

○目標達成状況

春苗配付老人クラブ数は233クラブにとどまり、目標を達成することができなかった。

【事業の成果】

スポーツ大会や作品展の開催等を通じて、高齢者同士の交流や世代間の交流を促進し、高齢者の生きがいと健康づくりにつなげることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

グラウンド・ゴルフや輪投げ等、老人クラブ連合会による新たな取組を支援するとともに、広報上越等により老人クラブ連合会の事業をより広く周知し、新規会員の獲得や活動の活性化につなげていく必要がある。

【執行残額について】

○その他

・消耗品費等が当初見込みを下回ったことなどによる残 16



シニアスポーツ大会



シニアゲートボール大会

(単位：千円)

決算書 (P186～P187)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	国保年金課
事業名	老人医療対策事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
4,807	2,389		1,357		452 (繰入金)	580
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	2,418				2,418	

【目的】

65歳から69歳までのひとり暮らし又は寝たきりの人が、病気などにより通院・入院した際の医療費自己負担額の軽減を図る。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

- ・対象者 65歳以上70歳未満のひとり暮らし又は寝たきりの状態で、後期高齢者医療制度の対象とならない人で、年間の合計所得金額が125万円以下の人
- ・助成額 新規対象者(平成26年4月1日以降)は、本来の自己負担額から自己負担額の2割相当額を差し引いた額
経過措置対象者は、本来の自己負担額から自己負担額の1割相当額を差し引いた額
- ・経過措置 平成26年4月1日から70～74歳の医療費の自己負担割合が1割から2割になったことに伴い、国の高齢者医療制度に準拠する老人医療費助成制度(県老)についても、受給者の自己負担割合を2割に変更した。
ただし、制度改正前の受給者は、経過措置として74歳を上限に自己負担割合を1割に据え置くこととした。

<助成の仕組み>

本来の自己負担割合

7割 保険者負担	3割 自己負担
----------	---------

老人医療費助成の自己負担割合(平成26年4月1日以降新規対象者)

7割 保険者負担	2割 (自己負担)	1割 (老人医療費助成)
----------	--------------	-----------------

※自己負担額が一定額を超えた場合は、高額療養費の対象となる。

老人医療費助成の自己負担割合(平成26年3月末現在受給者：経過措置対象者)

7割 保険者負担	1割 (自己負担)	2割 (老人医療費助成)
----------	--------------	-----------------

※自己負担額が一定額を超えた場合は、高額療養費の対象となる。

決算書 (P186～P187)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	国保年金課
事業名	老人医療対策事業		

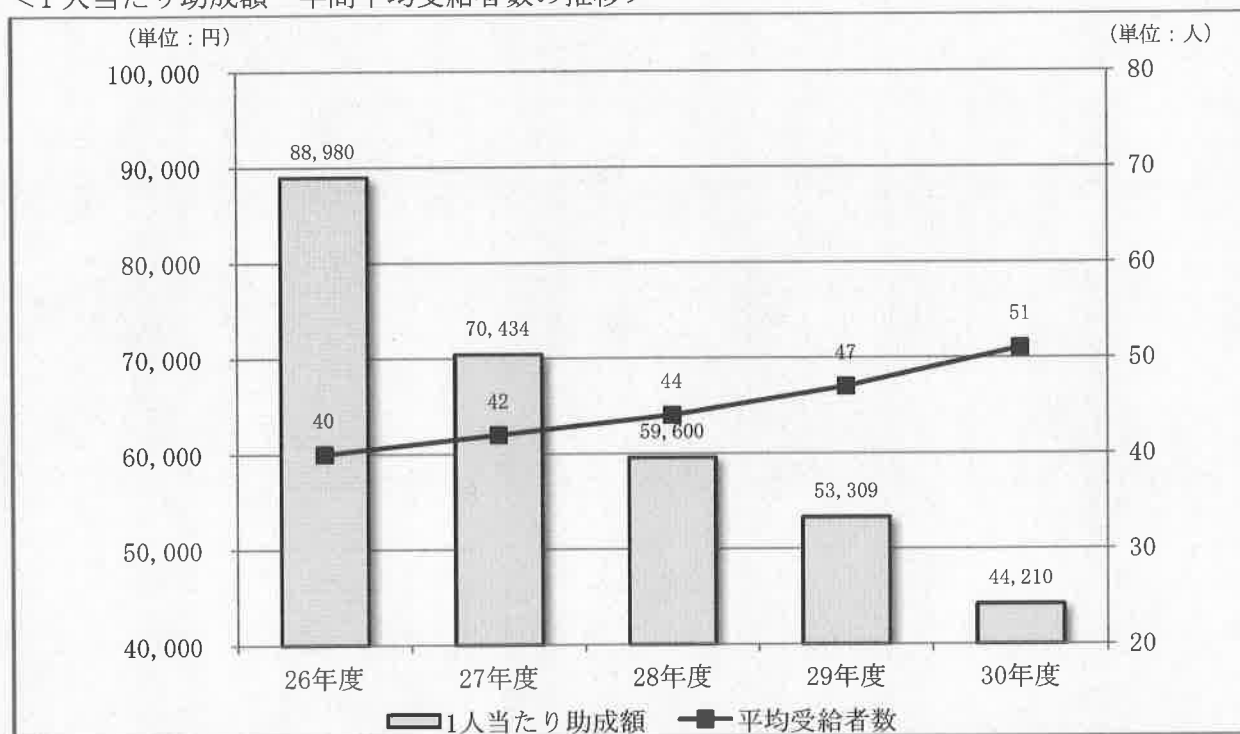
<1人当たり助成額・年間平均受給者数>

区分	平成29年度	平成30年度	比較増減
年間平均受給者数(人)	47	51	4
新規認定者数(人)	7	10	3
70歳年齢到達者等(人)	7	2	△5
年間助成額(円)	2,505,536	2,254,751	△250,785
1人当たり助成額(円)	53,309	44,210	△9,099

※年間平均受給者数は各月末の受給者数の平均

※1人当たり助成額は、年間助成額を年間平均受給者数で除した額

<1人当たり助成額・年間平均受給者数の推移>



【事業の成果】

広報上越や民生委員児童委員研修会を通じて制度周知を行い、受給者には速やかな助成により経済的負担の軽減を図った。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

引き続き広報上越やホームページ、研修会の機会等を活用し、制度の周知徹底に努める。

【執行残額について】

○その他

・助成額等が当初見込みを下回ったことによる残 2,418

(単位：千円)

決算書 (P186～P187)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	シニアパスポート事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
41,586	40,321					40,321
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,265				1,265	

【目的】

高齢者に外出するきっかけを提供し、家族や仲間との交流を深めることで健康維持及び生きがいのある充実した生活を送る手助けとする。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成30年度目標

シニアパスポート延べ利用者数 186,000人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 実施内容

- ・70歳以上の高齢者を対象にシニアパスポートを発行し、指定した市内の公共施設等の利用料金を半額程度に減免するとともに、減免分は指定管理者等へ補てんした。
- ・シニアパスポート事業の適正な運用を図るため、シニアパスポートの適正利用を呼びかける記事を広報上越に掲載して周知したほか、対象施設の指定管理者等へヒアリングを行い、シニアパスポートが適正に利用されていることを確認した。

(2) 対象施設

吉川ゆったりの郷、くるみ家族園、市民いこいの家、鶯の浜人魚館など32施設

(3) 利用実績

区分	平成29年度		平成30年度		比較増減	
	延べ利用者数(人)	減免補填金	延べ利用者数(人)	減免補填金	延べ利用者数(人)	減免補填金
直営施設	11,159	1,831	13,477	2,279	2,318	448
指定管理施設等	173,111	38,446	169,705	37,783	△3,406	△663
合計	184,270	40,277	183,182	40,062	△1,088	△215

決算書 (P186～P187)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	シニアパスポート事業		

○目標達成状況

シニアパスポート延べ利用者数は183,182人となり、目標を達成することができなかった。

【事業の成果】

温浴施設等の利用を通じて高齢者に外出を促し、閉じこもりを予防するとともに、家族や仲間との交流を深め、健康を維持し、生きがいのある充実した生活を支援することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

引き続き、施設利用時のパスポート提示等の利用上の注意について、対象施設や広報上越で周知し、適正な運用を図る必要がある。

【執行残額について】

○その他

- ・郵送料等が当初見込みを下回ったことによる残 273
- ・シニアパスポート減免補填金が当初見込みを下回ったことによる残 992

(単位：千円)

決算書 (P186～P187)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	ふれあいランチサービス事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
74,107	74,101			8,600	24,940 (借入金)	40,561
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	6				6	

【目的】

ひとり暮らし高齢者等にバランスのとれた食事を提供するとともに、配達時に直接手渡すことにより定期的な安否確認を行い、高齢者等が健康で自立した生活ができるように支援する。

平成 30 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成30年度目標

アセスメントに基づき、必要な人に適切にサービスを提供する。あわせて、事業の効率化・適正化が図られるよう、新しい仕組みづくりや自己負担金の見直しに向け、検討を進める。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 対象者

ひとり暮らし高齢者又は高齢者のみ世帯等で身体が虚弱な人のうち、アセスメントにより事業利用が適当と認められる人

(2) 内容

栄養管理及び品質管理を適正に行い、バランスのとれた食事を提供するとともに、手渡しで弁当を配達することにより安否確認を行う。

(3) 自己負担金

1食につき400円(おかずのみは300円)

(4) 委託先と委託範囲

委託先	委託範囲	備考
えちご上越農業協同組合	合併前15区	週7日配食
(福)上越市社会福祉協議会	柿崎区、板倉区以外の11区	週5日配食(名立区は週7日)
(福)松波福祉会	柿崎区	週7日配食
(有)かたおか	板倉区	週5日配食

決算書 (P186～P187)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	ふれあいランチサービス事業		

(5) 利用実績

区分	年間配食数(食)			委託料			自己負担金		
	平成 29年度	平成 30年度	比較 増減	平成 29年度	平成 30年度	比較 増減	平成 29年度	平成 30年度	比較 増減
合併前15区	47,605	43,927	△3,678	42,298	38,979	△3,319	15,599	14,378	△1,221
安塚区	1,932	2,374	442	2,358	2,899	541	609	754	145
浦川原区	1,652	1,611	△41	2,047	1,999	△48	559	562	3
大島区	1,467	1,654	187	1,815	2,033	218	530	542	12
牧区	811	790	△21	987	956	△31	251	237	△14
柿崎区	8,220	8,356	136	8,188	8,334	146	2,908	2,990	82
大潟区	2,323	2,669	346	2,843	3,282	439	749	885	136
頸城区	3,832	3,399	△433	4,687	4,150	△537	1,108	1,079	△29
吉川区	1,493	1,419	△74	1,812	1,735	△77	457	455	△2
中郷区	2,202	2,450	248	2,796	3,117	321	871	979	108
板倉区	1,754	2,005	251	1,459	1,667	208	538	637	99
清里区	827	584	△243	1,004	710	△294	250	180	△70
三和区	896	1,134	238	1,099	1,399	300	293	384	91
名立区	1,661	2,193	532	2,113	2,790	677	671	877	206
合計	76,675	74,565	△2,110	75,506	74,050	△1,456	25,393	24,939	△454

○目標達成状況

サービスの均一化を図るため、令和元年度から、全市域において、土曜日・日曜日・祝日を含めた毎日の配食と見守りサービスを提供できるよう実施体制を見直すとともに、自己負担金についても、令和元年10月に予定されている消費税率引上げを反映した見直しを行った。

【事業の成果】

地域包括支援センターやケアマネジャーが実施するアセスメントに基づき、バランスのとれた食事を提供するとともに的確な安否確認により、ひとり暮らし高齢者等の見守り支援につなげることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

引き続き、アセスメントに基づき、必要な人に適切にサービスを提供する必要がある。

【執行残額について】

○その他

- ・自己負担金の振替件数が当初見込みを下回ったことによる手数料の残 6

(単位：千円)

決算書 (P186～P187)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	シニアサポートセンター運営事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
1,678	1,056					1,056
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	622				622	

【目的】

高齢者等の積極的な社会参加を促進するとともに、高齢者相互の援助活動を行い、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できる地域社会づくりを推進する。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

1 シニアサポートセンター運営事業 17

○実施内容、これまでの経過等

(1) 援助内容

- ・ごみ出し、買い物、掃除、洗濯等の日常生活の援助
- ・趣味活動の援助
- ・話し相手等の孤独感解消の援助

(2) 利用会員及び提供会員数

(単位：人)

区分	平成28年度	平成29年度 ①	平成30年度 ②	比較増減 (②-①)
利用会員	121	48	23	△25
提供会員	73	35	19	△16

(3) 利用件数

(単位：件)

区分	平成28年度	平成29年度 ①	平成30年度 ②	比較増減 (②-①)
延べ利用件数	4,844	1,870	1,339	△531

※平成28年12月から開始した訪問型サービスBへの移行を進めた結果、現在利用している人は、訪問型サービスBの対象外の人のみ

<訪問型サービスBとは>

介護保険の新総合事業のサービスであり、担い手養成講座を受講した有償ボランティアが利用者宅(主に要支援1・2の人)を訪問し、家事支援(買い物、調理、掃除、洗濯、ごみ捨て等)、話し相手、安否確認を行う。

決算書 (P186～P187)	3款1項5目 老人福祉費	所管課等	高齢者支援課
事業名	シニアサポートセンター運営事業		

2 ボランティア利用助成（美助っ人^{びすけっと}さん）事業 1,039

○平成30年度目標

上越市社会福祉協議会、地域包括支援センターなど、関係機関と連携し、支援を必要とする人が確実に助成を受けられるよう、周知を図る。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 事業内容

家事援助を中心とした軽度な支援に有償ボランティア（訪問型サービスB、シニアサポートセンター、ほっと安心生活サポーター）を利用する際、ボランティア利用料の一部を助成する。

(2) 対象者

市民税所得割非課税のひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯に属する虚弱な人

(3) 助成額

有償ボランティアの利用に要した費用の40%（1週間当たり2回、1回につき1時間を限度として、1時間当たり200円を上限に助成）

(4) 利用件数等（週2回まで）

区分	平成28年度	平成29年度 ①	平成30年度 ②	比較増減 (②-①)
延べ利用件数（件）	5,335	6,513	6,382	△131
助成額	2,100	1,401	1,039	△362

※利用件数は、訪問型サービスB、シニアサポートセンター及び社会福祉協議会が行っているほっと安心生活サポーターの利用件数のうち助成対象分の合計

○目標達成状況

上越市社会福祉協議会、地域包括支援センターなど、関係機関と連携し周知を図ったことで、対象者への確実な支援につなげた。

【事業の成果】

有償ボランティア利用料金を助成することにより、ひとり暮らし高齢者等が家事支援のボランティアを受けやすくしたほか、ボランティアの利用促進にもつなげた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

ボランティア利用助成（美助っ人^{びすけっと}さん）事業については、新総合事業の訪問型サービスBへの移行の経過措置として延長継続していることから、移行の状況を踏まえ、終期を設定するとともに、利用者等へ十分に説明を行う必要がある。

【執行残額について】

○その他

- ・シニアサポートセンターの提供サービスの件数が当初見込みを下回ったことによる保険料の残 25
- ・利用件数が当初見込みを下回ったことによるボランティア利用助成費の残 597